

JISS

The Japan Institute of
Scandinavian Studies

No. 317
2000/9

発行所 社団法人スウェーデン社会研究所 〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1 (株) 科学新聞社内5階 TEL03 (5776) 1835/FAX03 (5776) 1836
発行人 松元さきり Publisher&Editor Sagiri Matsumoto 編集責任者 川崎一彦 Editor in Chief Kazuhiko Kawasaki
デザイン ワンバイワンステーション 印刷所 東友印刷 2000年9月25日発行 No. 317



Photo 中嶋千絵 (dill.com)

講演会 ノキアの目指すモバイル情報社会／素人もまたスウェーデンを／ロンネビー通信～21世紀への展望と市～1000年の梨(しおり)／What a wonderful Swedish life! 瑞典的日常【4】／Japan Calendar October Issue 2000／EVENTS OF NORWAY ノルウェー通信／BOOK／MOVIE／JISS EVENT

ノキアの目指すモバイル情報社会

「ノキアの目指すモバイル情報社会」と題した講演会が9月5日午後2時から、東京FMホールにて、Tokyo FM 300倶楽部及び科学新聞社と共催する形で開催された。ノキア・ジャパン(株)代表取締役社長ヘイッキ・カスコ氏が、ノキアの全般的な経緯、編成、将来そして日本における活動を紹介した。

IT・情報端末という分野の今後の動向を知る上では、またとない機会であった。

◆ 全般的な経緯

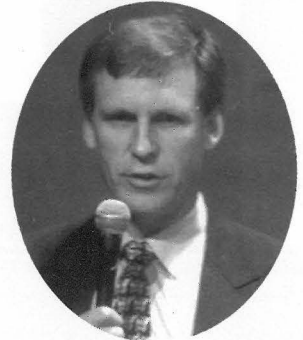
フィンランドは、面積は日本とほぼ同じで人口約500万人の小さな国です。山がなく、国土のほとんどを森林と湖と湿地帯が占めます。その小さな国を本拠地とするノキアは、成長の為に国外に目を向けるしかありませんでした。名前の由来はノキアという小さな町で、その町名が社名になりました。ノキアは非常に歴史が古く、今年で創設135年です。もともとノキアは、材木を扱うパルプや製糸産業でした。その他の事業部門が増えていき、1960年代に携帯電話のもととなる事業部ができ、それらを統合してノキアコーポレーションという会社が1966年にできました。そして80年代末には、木材、化学、機械、データ関連の会社(北欧最大)など40もの異なる事業に手を広げていました。その後90年代初頭、ヨーロッパ全体が不況に陥った時、フィンランドもかなりの打撃を受けました。その当時、新しい社長となったヨルマ・オリラが、新しい経営トップチームを組み、新たな戦略を練りました。そして、ノキアは一つの事業、つまり今も事業の中核となる「通信」に焦点を絞ろうと決めました。今日までノキアは携帯電話の生産を続けており、世界でもNo.1となるのが出来ました。また、現在、ネットワーク・インフラの事業も手掛けています。

◆ ノキアの編成

ノキアのグループは、3つの事業グループで成り立っています。1つがノキア・モービルホン。こちらは携帯端末と関連機器を取り扱っています。ノキア・ネットワークスは固定・無線のインフラ、ネットワーク関係を扱い、3つ目のグループ、ノキア・ベンチャー・オーガニゼーションでは新しいビジネスのアイディアの発掘、開発、またインターネット関連の事業を行っています。携帯電話においては、現在世界で1位につけています。次にノキア・ネットワークスですが、こちらの事業部門は、セルラーネットワーク及び広帯域アクセス技術のビジネスを行っており、こちらの方も世界中の通信事業者からよい評価をいただいています。

ハイテクのビジネスにおいては、「人材」が重要です。

ノキアは世界に6万人以上の社員がおり、フィンランド国内には2万人、そしてその他の4万人は世界中で仕事をしています。その従業員をとりまとめる普遍的な4つの価値を掲げると、まずは、「顧客満足」。どんなビジネスも長期的にはこれは基盤にしていかなければなりません。そして



ノキア・ジャパン代表取締役社長ヘイッキ・カスコ氏

「個人を尊重」することが大事です。またノキアの社内文化として「目標の達成」が挙げられます。つまり結果や達成感を重視します。そして、非常に迅速に変化しているビジネスですので、「継続的な学習」をすることが大事です。

またリーダーシップに基づく価値ですが、まず一番大事なのが「スピード」と「タイミング」です。さらにノキアは社内文化としてコミュニケーションを重視していますので、常に「オープン」である事。そして、「行動と言葉が一致している」事。次に必要なのが「チームワーク」です。そして「謙虚」である事が大切です。フィンランド自体が小さな北の国であるという環境も考えると、謙虚にならざるをえなかったのでしょう。それから「責任感」も大事です。そして「信頼」する事。特に異なった文化や国の人々が集まっているので、信頼を築きあげていかないとオープンなコミュニケーションもとれません。

◆ ノキアの将来

次世代のモバイル・セルラー・コミュニケーションというものを考えると、これまでのコミュニケーションの媒体は「耳」が中心だったのが、今後は「目」と主体とするコミュニケーションになると思います。日本では、SkyWebやi-modeなどが既に使われています。次世代の電話機が来年頃立ちあがります。より豊かなコンテンツがどんどん出ており、3Gのネットワークが立ちあがればさらに新しいサービスがどんどん利用できるようになります。

放送分野をみますと、ノキアはエンターテインメント性が放送サービスを動かす鍵になると考えています。そしてインターネットも含めた付加価値サービスが今後テレビでも、なくてはならない部分になってくるはずです。主要な要素はモビリティ(移動性)です。人は常に、移動している時でもニュース、スポーツ、エンターテインメントにいつでもアクセスしたいという欲求があるので、モビリティが非常に大事です。次に鍵となるのがトレ

ンドです。現在技術的にみれば、アナログからデジタルへと移行しています。地上ネットワークがヨーロッパ各国でも提供され、デジタル化が進んでいます。そしてコンテンツがデジタルになってれば、より多くのコンテンツを提供できるようになります。通信分野をみてみますと、オペレーターとコンテンツの間の一体化が進み、ここでもどれだけのコンテンツを提供できるかが非常に重要になります。

PC業界とモバイル端末業界の展開の仕方ですが、推定では2003年の時点で約5億台のPCがインターネットに接続されるようになると予想されます。日本でも約18ヶ月前からインターネットが急速に伸びており、今現在約1000万人以上の人々が携帯端末からインターネットに接続しているということで、これからはますます伸びてくると思います。

◆日本における活動

ノキア・ジャパンは約11年前に設立されました。最初は、日本の部品メーカーや一般メーカーなど、日本の企業と協力して開発購買を行う会社でした。しかしながら94年の規制緩和によって、携帯電話端末の市場にも参入する事が可能になり、端末の販売を日本市場で開始しました。95年には、端末の研究開発施設を開きました。それから5年、現在では、NTTドコモなどと緊密に協力し合い、世界基準となる第三世代移動通信の開発を行っています。



会場を埋めつくした参加者

それから、東京にノキア・リサーチ・センターというノキア・グループ全体のためのリサーチセンターが東京にも開設され、東京大学や慶応大学など主要な大学協力関係を築いています。またIPセキュリティー関連の製品を売っているノキア・インターネット・コミュニケーションズという部署も日本にあります。研究開発は赤坂、目黒、横須賀リサーチパークの3つのエリアに拠点を構えています。インフラのビジネスでは、去年3月に大きな突破口をみて、日本テレコムとノキアがパートナーとして、第3世代移動通信ネットワークを作っていこうという事になりました。2002年の初めにかけて、これからお互い協力していく事になります。このようにノキアジャパンでは今後も日本市場に特化し、日本のお客様のニーズにこたえるモバイル・インフォメーション・ソリューションを提供しつづけていきます。

素人もまたスウェーデンを

東海大学名誉教授 藤牧 新平

Prof. Emeritus of Tokai University Sinpei Fujimaki

私がスウェーデン社会研究所に関係するようになったのは、10年程前に、同研究所の役員の人事異動があり、東海大学の方から、私が常任理事として出向するよういわれた時からである。東海大学には、北欧文学科があるので、その中から誰か専門家を選べばよさそうなものだが、それがどうして私のような素人に白羽の矢が立ったのか、私には分からない。

常任理事になって間もなく、故西村理事長、中嶋博顧問と私とが集まる会合で、スウェーデン社会研究所創立25周年を目指して、ハンドブックを出そう、ということが決まり、早稲田大学の岡澤憲美教授が、編集責任者、そして、出版は、早稲田大学出版部が引受けるということになった。間もなく、岡澤教授が提案した項目と執筆者のリストの中の、「外交」のところに、私の名が挙げられていた。私は、スウェーデンを専門に研究したこともないので、辞退したが、とうとう引受ける破目になった。今にして思えば、スウェーデン語もできない自分が、よくもまあ気安くあんな大仕事を引受けたものだ、と思う。幸い、ハンドブックは予想していたよりは、売行きがよかった、と聞いている。

それが、効いたのかどうか、私は、知らないが、その後、同出版部が企画した「リブリ・ムンディ」シリーズで、スウェーデンが、米、独、仏と並んで、政治・経済・社会の三部門別に、出版されることになった。その「社会」篇のうち、「スウェーデンと日本」という項目を、これまた岡澤教授から説得されて、引受けた。このシリーズでは、当時まだイギリスの分は、出版されておらず、スウェーデンの方が、先行した、という話だったので、それを、出版記念会に来たスウェーデン大使館の人にしたら、彼もおどろいていた。

「スウェーデン・ハンドブック」、「スウェーデン政治・経済・社会」をひろげてみると、わが国のスウェーデン研究の巾と深さとが相当なものであることがよく分かる。そういう背景がなかったら、スウェーデン研究の専門家でもない私が、いくら無鉄砲でも、人に勧められて、筆を執り、駄文を弄するなどというような事は、起きなかったに違いない。今后は、スウェーデンに興味を持つ人がもっと増え、その研究がさらに深まり、さまざまな分野の人々が、この興味深い国について、大いに書いてもらいたいものである。

1000年の栞（しおり）

彫刻家・スウェーデン国立美術家協会・彫刻家組合会員 中林ヘルグレン富紀子
bildkonstnär Mrs. Fukiko Hellgren-Nakabayashi

Message from Mayor of Ronneby

親日都市ローネビー市長からのメッセージ

ローネビー市長 ヤンアンデッシュ・パルムクヴィスト氏
Mr. JanAnders Palmqvist

親愛なるスウェーデン社会研究所会員の皆様

ローネビー市を代表して会員の皆様にご挨拶申し上げます。この町にとりまして、日本とはBrunnes公園内に1987年に完成した日本庭園を通じて強い絆が築かれました。その庭園を市民に紹介して下さったのは、日本の建築家モチズキ・アキラ氏とSven Ingvar Andesson教授でした。私はこのことに大変感謝いたしております。

以来この庭園は重要な文化的催しを行う際の場所としてローネビー市民に親しまれて参りました。去る数日前も日本企業の訪問団もこの庭園を訪れました。これからもより多くの日本の方々がこの庭園を訪れて頂きたいと願っています。

さてこの庭園のそばにはソフトセンターと呼ばれるハイテクパークが設置されていますが、ここは新しい形の日本との交流で重要な役割を担って来ております。このローネビー市にある情報技術のためのセンターには、今日70社におよぶ企業が参加し1800人の学生がITを中心とした研究のため所属しています。昨年地元の大学はこの施設との共同により博士号を授与する資格を得ました。私達はこのセンターが今後ローネビー市地域において更なる研究開発の成果を上げてくれるものと期待しております。すでにいくつかグループが高度な研究成果を挙げています。また、ここを通じて世界と連携をもつ企業の存在も増えて参りまし



ドイツ・シュブハイム市市長。除幕式を挙行されるローネビー市市長、市公園長

た。例えば、Symbianは携帯電話のためのソフトを開発しておりますが、その取引相手は松下電器、エリクソン、ノキアにモトローラなどの世界企業です。

こうした成果を拡大するために、近年ソフトセンター自体も急速に成長し、現在では38000平方メートルの敷地に8棟のビルを有するまでになりました。ここでもSven Ingvar Andesson教授は大きな貢献を成し遂げました。彼と彼の同僚であるKerstin Andesson女史は、ローネビー川側にあるハイテクパークと公園をつなぐ2つの庭園を設計しました。その庭園は、日本の桜や日本的な構築物によって日本的な雰囲気を醸し出しています。来春にはソフトセンターを囲む満開の桜を訪れる人を魅了するものと願っています。

◆ 湯治場公園 (Brunnsparken) の歴史と特徴

1000年余(バイキング時代900~1200年)の歴史を誇るロンネビー市は、南部地方のブレーキンゲ(Blekinge)海岸に位置しており、特に、1700年代から湧き出した鉱泉の恩恵を受け、療養地として繁栄した。1705年に最初の鉱泉が掘り出され、ロンネビー河畔で創業されたが、間もなく枯渇し、1727年、新たに発見された源泉は、270年余の水脈を保ち、今日に至っている。公園内にある最古の大木造建築物(旧湧泉ホール)は、1846年に建築され、湯治客はロンネビー市に長逗留して共同生活をエンジョイしつつ、鉱泉風呂で湯呑みし、鉄分を多量に含み滋養豊かな鉱泉を飲みながら療養に努めた。事業は発展し、1859年になると1400名もの湯治客が訪れ、1873年

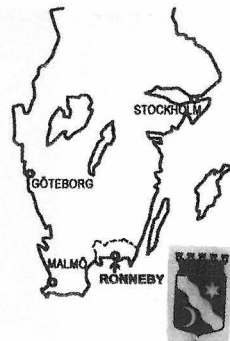
には公園と森林が拡張され、それに伴って湯治客のために美しい木造建築の宿泊所や、食堂、大浴場、ブレーキンゲ療養所、治療室等が増築され、1897年、この宏壮優美な湯治場ホテル(Brunnshotell)は完成した。

創設約二世紀を経て湯治場は隆盛し、Brunnshotellの評判は国内のみならず近隣諸外国にまで知れ渡り、その最盛期・1907年には2774名中1192名が上流階級の人々で占められていたと記録されている。

20年代に入ると、近代医学の進歩にともなって湯治場は衰退し、1929年に倒産した。事業自体は小規模ながら30年代に入ってからも継続されていたが、1939年遂に閉業するに至った。翌年、RESO旅行事業株式会社が、契約によりその権利を獲得し営業を開始したが、1959年に



ロンネビー市のシンボルマーク



湯治場全盛期の象徴とも言うべき、北欧最古の木造建築のホテルは、失火によって全焼した。

間もなくその焼け跡の基盤の上に、より強固な構造によるモダンで機能性に富んだBrunnshotellが再建されて、1961年5月1日落成式が行なわれた。新装なったホテルは更に増改築工事を続行し、時を同じくして、市は地域産業開発を推進すると共に、地方都市発展の活路をハイテク産業の振興に力を入れて、着々と成果を上げていった。10年の歳月を費して、雄大な自然を展望に配し、時代の要求に先駆け、ホテルと会議施設を兼備した斬新な様式を取り入れ、躍進するロンネビー市を象徴するのに相応しい豪壮な現Ronneby Brunnshotellは、1971年に完成された。

1985年に市で提起された世界平和一周旅行を記念して、平和の文字を象った、“白水仙”を大花壇に植え込んだ。1987年にロンネビー市制施行600周年祝典が盛大に挙行され、年内には更に、日本庭園、人工滝、芳香庭園、バラ庭園など、大規模な造作拡張工事が行なわれた。

◆ Brunnsparkenの特徴

25ヘクタールの広大な敷地に設えられた由緒あるこの公園の特徴は、英国風な造園の伝統様式とそのエキスを雄大な自然環境、特に、鬱蒼と茂る森林と起伏に富んだ丘陵を巧みに配し、それを見事に融合させた点である。

■ 親日都市、ロンネビーの歩みとその実績

ロンネビー市はスウェーデンに於いても稀な親日都市として長年の実績を誇っている。此処に、その歩みを紐解いてみよう。

1987年に面積、25ヘクタールの市立公園内に、市制施行600周年祝賀を記念して、造園家スヴェン・イングヴァ・アンダーション氏の指揮のもとに、造園家望月あきら氏の協力を得て、6平方キロメートルの敷地に北欧の大自然をそのまま借景に配し、日本文化の伝統、特に禅の神髄である、幽玄、わび、さび、風流を踏まえ、見事に融和させた壮大無比とも言うべき、ヨーロッパに於いても最高のスケールを誇る「日本庭園」が造園された。

庭園への「無門」の入口ともいえる森林、そして丘陵が視野一杯に広がり、20メートルの丘陵から一気に滝壺に落下し濛々たる水煙をあげる人工滝は、圧巻である。大自然の風光の中を、10分も歩くとやがて素朴ながら雅かな風格のある合掌造りの山門に辿り着く。それをくぐり抜けると正面に1995年に捉えられた筆者の『Tidensg_ng』重さ、4.5トン、高さ1.6メートル、巾4.5メートルの自然石の彫刻が生命の炎を漲らせて、移ろいをゆく「時」の証

市立公園は単なる遺跡が設けられた場所ではない。18世紀半ばに復元され、手厚く保存されている各施設は、現在も、学生寮、大企業の事務所、ユースホステル等に活用されており、その発端となった鉱泉は今でも、公園内に建てられた小さなパビリオンの中に設えられてある黄金色の動力井戸から汲み上げ、味わうことが出来る。四季を通じて、地域社会住民の親睦を図る催しや市が立ち、公園を愛し誇りに思っている市民にとって、掛け替えの無い憩いの場、心の故郷なのである。ロンネビー市は新世紀の黎明を迎えた今一先祖代々の遺産とも言うべき、この“珠玉”の郷土をより磨き、後世に遺したいと願っている。

◆ その他の見所

まずカルチャーセンターを訪ねてみよう。古い工場を買い取って改装した約1.5平方キロメートルの展示会場では国際級の展示会を鑑賞出来る。内部には講演会場、版画のアトリエ、観光事務所、レストランもある。12世紀に建てられた聖なる十字架教会、郷土民俗館、Mor Oivia庭園、M_llebacka庭園、18世紀半ばの粉ひき小屋や馬小屋の跡、手工芸品など郷土色豊かな見所が由緒ある街に点在している。

新ミレニアムを迎え、市は更に日本とロンネビー市との親交の絆を深める事を望んでいます。今回、独自の日本語によるテキストが完成しましたので、パンフレットを御希望の方は御連絡下さい。

<連絡先> Ronneby Kommun (市庁舎)
Tel:+46 4571-8000 URL:www.ronneby.se
公園課: Tel:+46 4571-8279 Fax:+46 4571 8639
旅行事務所: Tel:+46 4571-8090 Fax:+46 4571-7444

人の様に毅然として立っている。玉砂利を踏みながら素朴な造りの八つ橋を渡って枯れ山水の風情を楽しみ尚も行くと、もう1点、高さ、0.9メートル、巾2.5メートルの『Tidensspegel』が、時の風光を0.9メートルの円鏡に映しつづつ捉えられている。4トンの自然石を真っ二つに切断して、切った上部を下に添え、片方の中央を半円形に堀削して研磨し、満々と水を張ってある。この水鏡は、諦観のそして宇宙の無常観を象徴しているとも感じられる。回廊を渡りきると、茶室を据った簡素な木造家屋がしつらえてあり、これ等は北欧の自然の中にじっくり調和している。この宇宙生命の充滿している沈黙の世界は、我々が“真の自己”と出会う場所でもある。

■1995年10月 自然石の彫刻2点『Tidensg_ng』、『Tidensspegel』が庭園内に設置された。

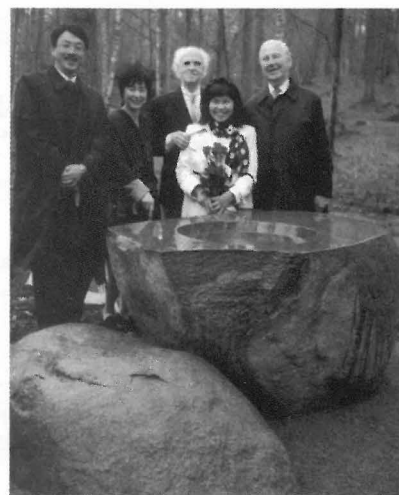
■1996年5月 篠突く雷雨は枯れ山水の庭園に風雅な趣を添え、関係者、来賓、在スウェーデン日本大使館・領事館(安細和彦)御夫妻、トーモクヒュース社長(博多昭

男)・SAS勤務(寿子)御夫妻、マルメ・コンストホール館長(スーネ・ノルグレン氏)の他、約100名近い人々が見守る中で、ロンネビー市長(ヤンアンデシュ・バルムクビスト氏)とドイツの姉妹都市Schopfheim市長(クラウス・フレック氏)によって除幕式が挙行された。黒いゴム引きの布が取り払われ、天と地の間に打ち込まれた小さな楔の様な存在感を漂わし、なおかつ、「水鏡」に寿ぎの時の刹那を映しつつ、この二点の彫刻がその全貌を現した時、人々の間から期せずして歓声と拍手が沸き起こった。その後で、安細領事と市長により彫刻設置記念植樹祭を行ない、造園家アンダーション教授が、一同を茶室に案内して庭園と雨情について話された。やがてこの美しい風光に後髪を引かれつつ、一同はバスでソフトセンターに向い見学、引き続きBrunshotellに行きコーヒータイム。その間に舞踊家、出雲いけ(スザンナ・オーケルンド)氏が見事な日本舞踊を披露し、喝采を浴びた。その後、市庁舎で開催している同彫刻の制作から設置までの写真並びに資料展を観に行った。その夜、同ホテルの大ホールで市長主催による豪華盛大なレセプションが行なわれ、80余名の来賓、関係者が一同に会して、豪勢な一期一会の祝宴が夜を徹して行なわれ、日本酒で乾杯!

■1997年8月～9月 カルチャーセンターで日本文化の夕べの公演に先立って『日本の歴史・宗教史、文化史』の講演と生け花、書道、お茶の実演と多量な写真、実物、図解等を展示して3回に及ぶレクチャーが筆者によって行なわれ、その際に在スウェーデン日本大使館の御好意により日本文化紹介のビデオをお借りして上映し、観衆の理解を深めることが出来た。

■1997年10月 『第1回日本文化の夕べ』がカルチャーセンターで特設舞台で公演された。当日200名を超える観客

彫刻を前に左から、在スウェーデン日本大使館領事御夫妻、市美術家協会会長、筆者、石の工場長



で会場は埋まり、まず、グニラ・リンドベリ・ワダ教授(ストックホルム東洋学部日本学科)が、『かえでの葉と秋の月』と題して、日本の和歌に於る秋の表現について講義を行なった。引き続きワダ教授の紹介で、五十里弥生氏(琴)、竹中幸生氏(水墨画)、前田芳雪氏、横田紫雲氏(書道)、天地宝翠氏(生け花)、依田幸子氏(着物ショー)総勢35名による富山県、山梨県からの文化使節団は観衆の熱狂的な拍手によって華やかな幕を閉じ、その夜、Brunshotellで市長主催による盛大なレセプションが行なわれ、大成功のうちに親日都市ロンネビーにとって記念すべき新しいページが此処に開かれた。

■1998年10月 『第2回日本文化の夕べ』が、埼玉県上尾市で指揮者・友清和親氏のもとで20年以上のキャリアと全日本大会でグランプリを受賞した実績を持つ女性合唱団「四季」総勢32名が、聖なる十字架教会で公演された。12世紀に建てられた教会を舞台に J.G. Rheinbergen の美しいミサ曲で始まったコンサートは、つめかけた聴衆を魅

What a wonderful Swedish life!

瑞典的日當 (4)

学校は森の下真ん中であつた。他には何もない。お店、ない。銀行、ない。郵便局、ない。土、日は町へ出るバスもない。私にとって唯一の“娯楽”は友人・知人から来る手紙を読む事だつた。

手紙は書くのも読むのも大好きだ。世はIT時代、e-mailの便利さはもちろん知っている。相手がパソコンを持っていればいつでも、どこからでもメッセージを送れ、しかも安価で早い。それでもやっぱり私は“大事な人”へこそ手紙を送りたいと思っている。

送る相手に合わせて、便箋や、封筒を選び(あ、もちろん季節にも合わせて)簡単なイラストを入れたり、親しい友人宛てならば、わざと読みにくい書き方(渦巻きに文章を書いていく)なんてこともできる。そして買ったためにおいたきれいな記念切手を貼ってポストに投函する～何でもスピード化の時代にわざわざこういう作業をするという事自体が、わたしは相手に対する愛情の深さ

だと思うだけだ。

パソコン天国スウェーデンでは手紙なんてもう無視されている存在なのかと思っていたが、ある雑誌で『どちらがイイ?手紙 vs e-mail』という特集を組んだり、(結果は手紙の惨敗であつた)。新聞の街頭インタビューで、『手紙の基本郵便料金5クローナは高いか?』という質問に対して、「たったの5クローナで、相手を喜ばすことができるなんて安い」という若者がいて少しホッとしたりもした。

スウェーデンからよく手紙を受け取る方は御存知かも知れないが、この国の消印は可愛いのである。消印を押す郵便局の管轄地の地名の代わりに、その地方の名品・名所などのイラストが消印になっているのだ。私の住んでいたネッショーは家具の生産が盛んなところなので、消印は椅子のイラストだつた。イェーテボリはあの有名なポセイダンの像、ストックホルムは、市庁舎のてっぺ

了し、特に「水のいのち」はメロディーの美しさに加えて、スウェーデン語に訳され配られた歌詞は一人ひとりの胸に直接響き、会場は深い感動の波に包まれ—そして終わった。最良の舞台とは出演者と聴衆とが一体になった時におのずと創り出されると実感させられた聴衆は、鳴り止まぬ拍手でその想いを伝え、いつまでも心に残る一刻だった。コンサートが終わってから、教会事務所で小さなパーティーが行なわれた。

■第1回及び第2回「日本文化のタベ」ロンネビイー公演後記

この催しは、直接日本の芸術家を招き、在瑞邦人は日本文化の素晴らしさを再確認して、それを誇りに持とう、日本の伝統芸術を直接見聞きする事により、スウェーデン人により深く日本を理解して欲しいという主旨の元に、主催・ロンネビイー市、ロンネビイーカルチャーセンター、市芸術家協会、協力・ストックホルム日本人会、ストックホルム大学東洋学部(第1回のみ)、後援・日瑞基金、在スウェーデン日本大使館との共同共催で行なわれた。最初にストックホルムで公演した後で、ロンネビイー市での公演が実現出来たのは、実に画期的な事で、これはひとえにストックホルム日本人会(和田俊之会長)の熱意と行き届いた配慮、協力の賜物であり、市長をはじめ関係者一同は、ここに心から深謝する次第である。この主旨に明記されている様に、「異質の存在」を理解し、受容しあい、共有しながら生きる輪を広げてゆく事は、新世紀に課せられた課題の1つだと思ふ。我々はこの親善の芽を育てつつ、ささやかながらも両国の絆が深められていく事を期待している。

熊谷 深雪
Ms. Miyuki Kumagai

んにある3つの王冠(王室のシンボルでもある)。ネッショーの椅子の消印は日本の友人たちからも「かわいい!」と大変評判が良かった。

こういう事はさすがスウェーデンらしいサービスだなあと感じていたら、日本でも2001年の年賀はがきの消印を、イラストを組み合わせた特別のものにするそうである。今度は日本からスウェーデンの友達を喜ばす事にしよう。

(筆者が日本へ帰国されたので今回でこのコーナーは最終回となります)



Embassy of Sweden in Japan By Kaj Reinius-Press Counsellor

Japan Calendar

October Issue 2000

在日スウェーデン大使館 カイ・レイニウス報道参事官
(<http://www.twics.com/~swedemb>)

10月17~23日「スウェーデンテキスタイルアート展」

オステルヨートランド羊毛紡績の主催で、8人のデザイナーによる模様編みや刺繍を施したニット作品などを紹介する。
時間: 9:30~17:30
場所: 大使館展示ホール

24日「EIJISアカデミーセミナー」

欧州日本研究所EIJS主催で、「日本の経営倫理(ケーススタディ)」と題したセミナーが開催される。
詳細: EIJS (Tel:03-3591-0775)
時間: 18:30~21:00
場所: 大使館オーディトリウム

31日「Å(オウ): 浸透する流れ展」

スウェーデンと日本の若手女性アーティストによる現代アートを紹介。初日に大使館にて「スウェーデン社会と女性アーティスト」をテーマとするシンポジウムが開催される。
詳細: Ms.塩崎 (e-mail:y3shioz@attglobal.net)
時間: 16:00~19:00 (シンポジウム)
場所: 大使館オーディトリウム及び展示ホール

11月6日~10日「スウェーデンITウィーク」

スウェーデンと日本のIT界がコンタクト作りや相互協力、ビジネスの機会を得ることを目的としたイベントが開催される。
詳細: e-mail:Swedish_IT@swedishtrade.or.jp

28日(~1月14日)「ニュー・ポピュレーション展」

スウェーデンの若手アーティストMs. Paulina Wallenberg Olssonのアート展が渋谷のオン・サンデーズにて開催される。
時間: 11:00~20:00
場所: オン・サンデーズ(ワタリウム美術館B1)

(在日スウェーデン大使館ジャパンカレンダー10月号より転載)

EVENETS OF NORWAY

ノルウェー通信

ノルウェー王国大使館広報部
(<http://www.norway.or.jp/>)

10月11~15日

「イブセン現代劇連続上映第2作 人形の家」
詳細: シアターX【東京】名取事務所 (Tel:090-3205-4699)

11月3~5日「北欧音楽祭すわ2000」

詳細: 下諏訪総合文化センター (Tel:0266-28-0018)

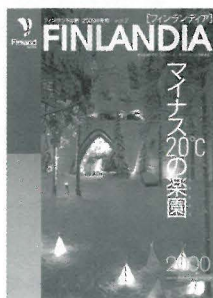
(ノルウェー王国大使館発行ノルウェー通信より転載)

Books

「FINLANDIA Vol.2」

発行/フィンランド政府観光局
販売元/オフィスオクト
Tel:03-3797-5336 ¥500+税

1年に2回発行されるフィンランド政府観光局の季節ガイドブック。フィンランドは季節によって、行くところ、見るもの、することが大きく変わります。夏にはハイキングや湖水クルーズで青々と輝く森や湖を満喫し、心身ともにリフレッシュ。冬には童心に返り、どこまでも続く雪原の中、犬ぞりやトナカイぞり、スノーモービルなどをおもいっきり楽しめます。そして夜には、厳しい自然がもたらす神秘的オーロラに遭遇できるかもしれません。そんな季節ごとの魅力をたっぷり紹介しているガイドブック「フィンランディア」は、政府観光局では、¥300、書店では¥500で販売されています。



「Suomi」

発行・販売元/オフィスオクト
定期購読/年間6回¥3,000
(税・送料込み)
定期購読をご希望の方は、(株)オクトまでお申込み下さい。
Tel:03-3797-5336

フィンランドの総合情報誌。フィンランド語ワンポイントレッスンや著名人のインタビューなど盛りだくさん。



「海外留学の手引き」

全国主要書店にて販売中

発行/ (財)日本国際教育協会留学センター
B5版 1,050円(税込み)

留学したい!でもどうすればいいの?情報はどこで手に入る?相談したいけど、どこへ行けば?99の国と地域における留学情報を網羅した本邦初の書。



エクセレントスウェーデン 「CARING」Vol.3

発行/スウェーデン大使館&シルバーストーン
発売/(株)紀伊国屋書店
Tel:03-5469-5918
A4版 定価1,429円+税
第三世代21世紀、世界が変わる。生活、経済、教育~スウェーデンの知恵が満載。



事務局より

9月28日(木)、東京・霞ヶ関ビル33階校友会館で、臨時総会が開催され、「役員を選任について」下記の通り承認されました。詳細は次号の会報にて掲載致します。

理事 川崎 一彦 (北海道東海大学教授、ストックホルム大学環太平洋アジア研究所研究員兼任)
評議員 池上 佳助 (東海大学北欧文学科講師)
事務局長 池田富士太 ((株)科学新聞社代表取締役社長)

「Nordens Språk」

発行/東海大学出版会 A5版、300頁 刊行予定/2001年1月
予定本体価格/3,000円

『北欧の言語』は「北欧言語事務局」によって1997年に改訂出版された本で、表題の通り、北欧の地で話されている諸言語を北欧語研究者のみならず一般に言語に関心のある人たちをも視野に入れて概説した北欧の言語の紹介書である。本書は、北欧サーミ語、フェロー語またグリーンランド語さえも含めた文字通り北欧で話されている全ての言語を採り挙げ、それらを各言語ごとに独立章を設けて、それぞれの言語が置かれている今日の言語状況、発音や文法的特徴、言語史、標準語と方言また言語保護や今後の言語政策等に渡って紹介。著者はアラン・カーカーやストーレ・ルエーランド、パッテル・モルデなど北欧言語学界を代表する言語学者たちで、ちなみに今回の改訂版は前二者にビルギッタ・リンドグレンを加えた三者がその編集の任に当たっている。

Movie

WEBMASTER

10月7日(土)より
新宿シネマ・カリテにて
レイト・ロードショー!



デンマークから、80年代の傑作「ブレッドランナー」を彷彿させる次世代のサイバーパンク・ムービーが出現した。サスペンスフルなストーリーと、デジタル画像をふんだんに盛り込んだ斬新な映像で魅せる作品、それが「WEBMASTER」だ。本作品のニールセン監督は1963年デンマーク生まれ。母国での成功のみならず、99年のカンヌ映画祭で上映された際には映画人の話題をさらい、その後各国の映画祭に出品されて数々の賞を受賞し絶賛された。今後、デンマークの次世代監督たちが各メディアの話題を独占していくのは間違いない。デンマーク映画ブレイクの兆しを感じられるいま、見逃せない作品である。

JISS EVENT SCHEDULE

講演会

前号でもご案内致しましたJISS講演会では、皆様のご参加をお待ちしております。
(詳細は、事務局までお問合せ下さい。)

11月10日(金) 18:00~20:30

大使館でのレクチャーシリーズVol.2!

「情報」は北から

—情報先進国・北欧に学ぶ!—

場所: スウェーデン大使館オーディトリウム

11月18日(土) 13:00~15:30

「スウェーデン・エコロジカルな暮らし」

—自分らしく生きるために—

場所: JISS事務局内イベントルーム

The Japan Institute of Scandinavian Studies
JISS
(社)スウェーデン社会研究所 事務局(松元・Matsumoto)
〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1 (株)科学新聞社内5F
C/O Kagakushinbunsha, 1-8-1 Hamamatsucho, Minato-ku, Tokyo105-0013 Japan
TEL:03-5776-1835 FAX:03-5776-1836 E-mail:jiss99@tkg.att.ne.jp
URL http://www.sci-news.co.jp/sweden/
月曜日~土曜日(水、日、祭日休) 10:30~17:30 Mon to Sat (Wed,Sun,Holiday close)

スウェーデン社会研究所
ホームページ
http://www.sci-news.co.jp/sweden/